

## 令和元年度 第3回学校運営協議会記録

日 時：令和2年2月12日（水） 10:00～11:50

場 所：校長室

○ 開 会 本協議会の成立確認 配付資料確認

○ 学校長あいさつ

○ 協議会委員紹介

- ・藤井 茂樹 大阪体育大学 教育学部教授
- ・松尾 達子 泉大津公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
- ・阪下 誠 和泉市教育委員会事務局 学校教育部 指導室 人権教育担当課長
- ・南 三郎 和泉市池上町校区会長 連合会長
- ・石田 絹子 大阪府立和泉支援学校 元PTA副会長
- ・尾崎 孝子 大阪府立和泉支援学校 PTA会長

○ 事務局員紹介 校長、教頭、事務長、首席、各部主事

○ 校長挨拶

○ 協 議

【1】今年度の学校経営計画の達成状況について（校長より報告）

【平成元年度 学校経営計画は本校 HP に掲載】

〈質問・意見等〉

- 校外歩行の活動をされているが、その時には、安全面を特に注意して取り組まれていることと思う。地域で見ていると、池上曽根遺跡を利用されることがあると思うが、最近変わってきたこととして、今までは大きな集団で長い行列を作って歩いている様子であったが、最近は、グループに分かれて小さな集団で歩いているようだ。交通等安全の意識をもって指導されている。
- 集落の中を通るときは、公共のマナーを守る練習をさせてもらっている。子どもたちの運動能力に応じたグループに分けて歩行学習に取り組んでいる。見守っていただき、ありがたい。
- 学校横の公園で遊ぶ地域の子どもたちが、校内にボールが入ることがあると思うが、その時の対応はどうか。
- フェンスの工事をおこない、今年度フェンスを高くした。土日は教員がいないため乗り越えているだろう。教員がいるときは取りに行っているが、ボール遊びを減らす等の啓発をしてほしい。
- 学校というものは、生徒主体で活動されているものだと思う。しかし、時には、先生は意図があって指導していることでも、きつく感じ、子供には苦痛になっていることもあるのでは。
- 子どもの指導には、子どもを理解したうえで取り組んでいる。仕事をするうえで教職員のストレスが高まることは良くない。そのためできることとして学校の環境を整えて、子どもや教師の負担を減らす取り組みをしている。環境を整えること、UD化することで落ち着ける。また子ども理解のために、専門性の向上を図ることも取り組んでいく。
- コグトレを全校で取り組むとあった。和泉市では、コグトレに取り組む中で、支援担任と学級

担任で意識の差があり、全校的に取り組むことに課題がある。和泉支援では学校全体と明記しているが、全体でどのように取り組んでいるのか教えてほしい。

- トレーニングという性質上、大きな集団での取り組みは難しい。そのため、グループ学習等で取り組んでいるグループが各学部にある。
- トレーニングというものは教育になじまない。子どもの実態を把握するためには様々な検査があり、その裏付けと教員の長年の経験と知見をもって子どもの見立てをすることが大切。トレーニングをすると能力が向上すると勘違いする一般学校の保護者もいる。子どもは日々のさまざまな積み重ねで成長することを丁寧に伝える必要がある。また、人との関わりの中で成長していくこともある。和泉支援は、地域の人たちから声をかけてもらっているか？以前勤めていた学校では、地域の人たちがよく声をかけてくれていた。災害時にもそのようなつながりは大切であると思う。
- 一時避難所ではなく、福祉避難所として、泉大津市・和泉市と提携している。有事の際はもちろん地域の方の一次避難所にはなると思うが、学校としては、地域の方の二次避難所、在校生、保護者、卒業生の一次避難所として捉えている。この件は、未だ府の方でも整備中であるが、学校独自の対応も考えている。
- 避難所の小学校まで行きにくい、和泉支援近くに住む体の不自由な方等の一時避難所としてお願いしたい。
- 東日本大震災の際も、自閉症の人たちの居場所に課題があったときいた。そのような人達が避難できる場所を府や市の教育委員会は考えていかなければいけないだろう。

## 【2】 学校教育自己診断（生徒）の結果と分析及び学校の取り組みについて（首席より報告）

【診断結果については本校 HP に掲載】

〈質問・意見等〉

- アンケート 8 番の「校長先生に言いたいこと」はいつもしている質問なのか。
- いつもしている。子どもたちが校長先生と何かを伝える機会はあまりない。ここに書かれているのはほとんど要望であるが、そういった児童生徒の意見を出す機会として項目をあげている。子どもたちの校長先生へのイメージも感じ取れる。
- 校長先生への意見はよいと思う。ぜひ続けてほしい。子どもの気持ちをすべて汲むことはできないが、要望などの思いを校長先生が知っておくことは大切だろう。

## 【3】 次年度の学校経営計画について（校長より報告）

【令和 2 年度 学校経営計画は本校 HP に掲載】

〈質問・意見等〉

- 次年度より、さらに自立活動についても力を入れるお話であった。私たちの市でも取り組んでいるが、支援担任等も実際にどのようにしたらよいのかと、悩んでいる場面もある。支援学校の先生に教えていただきたいと思っている。校長先生が話されたようにおんぶにだっこにならない地域支援整備事業の取り組みも大切だと思うが、今後ご支援ご協力いただくようお願いしたい。
- 「キャリアプランニングマトリックス」とはどのようなものか。
- キャリア教育の視点をもって、小・中・高に分かれて必要な項目ごとに自立活動の目標を示しているもの。大阪体育大学前教授の後上先生にご指導いただきながら作成した。しかし、より活用しやすいものにしていきたいと思い、今年度から見直しを図っている。今は、小中高に分けずに、発達段階別に項目ごとの目標設定を立てて作成しようとしている。

○自立活動は、肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児の教育ではわかりやすい。昔「養護・訓練」と言われていた時代からであるが、知的障がい児の自立活動はわかりにくく、まだそこまで進んでいない現状はこちらの学校だけではない。知的障がい支援学校でも、これから取り組みを深めてほしい。抽出して自立活動の取り組みをされていることは、知的障がい支援学校では少ないのではないだろうか。

肢体不自由支援学校では、特に専門的な方に来てもらって支援することがある。医療との連携も多い。リハビリテーションの先生と一緒に考えてもらったらよい。専門的な視点でいろいろと教えてもらおうとよい。こちらには、PT、ST、OTの先生はどれくらい来ているのか。

○PT、ST、OT、臨床心理士が年間それぞれ3～4回来てくださっている。

○もっと来てもらえたらよいと思う。近年、PT、ST、OTの先生たちが、自閉症の子どもたちへの運動プログラムを考案し始めている。保護者にも関心が強い内容である。その他にも、リハビリテーションを掲げている施設もある。大阪ではまだリハビリテーションを取り入れているところは少ないかもしれないが、福祉サイドがそのような動きをしていることを知っておいたほうがよい。保護者はまの当たりにしている。放課後等ディサービスでも、そのような取り組みをしているところがある。ディサービスで受けた、自立活動の取り組みを、「これでいいの？」等内容について聞きに来る保護者もいるかもしれない。そのときに一緒に相談に乗れるようになっておいてほしい。

今年から政府が「トライアングルプロジェクト」という取り組みを始めている。福祉と保護者と学校での連携を国策で動いている。その内容には、理学療法や作業療法が入ってくるので、それをよく知っておく意味でも、年間に来てもらう回数を増やすのもよいかもしれない。

○わかりました。また考えていきます。

○外部の専門家と話す視点と視点が広がる。またそのような外部の方と連携をとるときに個別の教育支援計画を活用されていると思う。個別の教育支援計画には「関係機関の連携による」という枕詞がある。個別の教育支援計画は学校だけで書くものではないと国策ではなっている。平成14年から作成が始まって平成19年に完全実施になった。PT等の先生と連携をとるときに活用していけたらいいし、そのような視点でも考えていってほしい。

○ありがとうございます。

<現在のキャリアプランニングマトリックスが手元に届く>

○ここに書かれている取り組みは、小学部段階で取り組むと、中・高等部でどのような目標になっていくのかがわかるようになっていく。もちろん発達段階を考慮して行っている。

実際の活用までもっていききたい。これは6年ほど前から取り組んでいる。

○子どもの発達特性をよく見極めて取り組むことが大切。これが小学部段階から取り組まれていることがすばらしい。できれば、事例を載せてもらえると、現場の先生もわかりやすいのでは。

○今、全国の高等部の一般就労率を上げるような取り組みをと国が言っている。高等支援学校では、就労率が確かに上がってきている。しかし、一般の支援学校の数字は上っていない。これは、生活力がついていないからと考えられる。生活面での力を上げることを小学部から取り組んでほしい。

滋賀県ではここ5～6年、就労移行B型が空いている。生活介護に行く人が増えている。

生活力を上げて欲しいという保護者のニーズがあがってきているのでは。そういう意味では、こちらでは、自主通学ができる力をあげてほしい。自分で危険認知をする、周りを意識する等、自主通学と就労は直結しているとも言える。また、電車に乗る等、働きに行く時に家ではない社会の中にいる自分をイメージできる力や意識は大切である。

○貴重な意見ありがとうございます。事例を載せることと自主通学については考えていきます。

#### 【4】その他全体を通して

- JR 信太山駅に西口改札をつけてもらう件。池上町の歴代町会長が 20 年前から市長とのタウンミーティングで協議してきた。この 3 月にやっと西口改札が設置されるようになる。費用は、町会と市と国が均等に出し合う。教員の方々にも朗報ですので、ここでお知らせする。
- ネットの危険性についての保護者向け講座を何年か前にした記憶がある。子ども向けにもそのような講座をしてもらえないか。危険性がわからず犯罪者にならないかと危惧している。
- 本校の生徒にも啓発は必要であると思う。子どもにとって発達にあった伝え方がある。その工夫をする必要がある。今でも、高等部主事や生活指導部が中心となって対応をしている。
- 以前も事件になっていたが、子どもは、自分の周りだけで起こっていることだと勘違いしがち。でもネットは全世界に拡散される。そういう危険性を知っておくべき。
- 本校でも以前にメールのやり取りでトラブルがあった。生徒も教員も含め、そのような危険性を理解できるような取り組みで、継続的にできることを考えていきたいと思う。
- 小・中学校では、子どもを対象に取り組んでいる。町内会で取り組んでいるのを聞いたこともある。できれば、点でなく、そのような全体的に啓発できる取り組みがよい。
- 今日はありがとうございました。今年度は特に施設等のハード面を整備していかれたことは、とても評価できること。次年度もハード面、ソフト面も含め取り組みを進められるかと思うが、子どもたちのためにもどうぞよろしく願いいたします。

○学校長お礼

○次回連絡 令和 2 年 6 月 10 日（水）10：00～12：00